

修士論文 執筆ガイドライン

(2011 年 4 月 1 日)

1. 修士論文の本分は IMRAD (Introduction, Methods, Results and Discussion) に準じて記す。各パートの名称と内容は、次の表を参照のこと。ただし、それぞれの研究の特殊事情に応じて (例えば、質的研究、総説など)、実際に用いられる見出しは適切なものに変えてもよい。

名 称	内 容
表紙	論文題名と著者名
目次	大見出し、中見出し、小見出し毎に順次ページ番号を記す
緒言または序論	研究課題の背景 (先行研究文献に基づいて記す) 研究目的
方法	研究対象 データ収集方法 (調査方法、実験方法) 測定指標 (調査項目) データ分析方法 プライバシーの保護などの倫理的配慮
結果	この研究で得られたデータに基づいて記す
考察	この研究での結果と先行研究文献に基づいて考察する
結論	この研究の結論を簡単に記す
謝辞	(必要に応じて)
引用文献	引用した文献のリスト (単なる参考文献は除く)
図表	この研究で得られたデータを図表化する。結果等の任意の箇所に挿入する。
資料	この研究で用いた調査票等 (必要に応じて添付する)

2. 章立て

章立ては、第 1 章； 第 1 節、1、(1)・・・第 2 節、1、(1)・・・・・・・・

第 2 章； 第 1 節・・・・のように並べ、研究の論理的道筋が明確になるように構成を心がける。

3. ページの付け方

本文パートは、緒言から引用文献まで、通しページをつける。資料パートは必要に応じてつける。

4. 執筆要領

- 1) A4 サイズの紙を用い、明朝体活字で 1 ページ文字数を 34 字×30 行=1,020 字とする。

余白設定は上下左右とも 30mm とする。

- 2) 数字および欧文文字は原則として半角とする。

(ア) 外国人名や適切な日本語訳のない用語などは、原語の綴りを用いる。

(イ) 本文中の文献引用は、筆頭著者の姓と発表年を示し、次の例のように記す。

(例) 「△△に関しては、・・・・・・・・だった (〇〇ら、2011)。」

「〇〇ら (2011) は、・・・・・・・・と指摘した。」

5. 図表の様式

- 1) 図表の題名は「表 1.」「図 1.」のように記し、表は上側に、図は下側に配置する。

2) 本文中の読みやすい任意の箇所に、表および図を番号順に配置する。

6. 引用文献リストの記載様式

- 1) 文献リストは、下記の＜引用文献例＞に準じて記載するか、もしくは、主要学会の引用文献の方法に準じて行う。
- 2) 引用文献のリストは、筆頭著者の姓のアルファベット順に並べる。同一著者の文献は、出版年が古い順に並べる。同一著者で出版年が同じ文献は、2008a、2008b・・・のように、出版年のあとに小文字のアルファベットを付けて区別する。

＜引用文献例＞

・ 学術雑誌の場合

著者名（発行年）：論文題名. 雑誌名, 巻: 頁一頁. (著者名や雑誌名は省略しないこと)

(例) 森田 美登里 (2008). .回避型コーピングの用いられ方がストレス低減に及ぼす影響 健康心理学研究, 21, 21-30.

(例) Major, B.M., Richards, C., Cooper, M.L., Cozzarelli, C., & Zubek, J.(1998). Personal resilience, cognitive appraisals, and coping: An integrative model of adjustment to abortion. Journal of Personality and Social Psychology, 74, 735-752.

・ 単行本の場合

著者名（発行年）：書名. 発行所.

(例) 下山晴彦 (2003). 臨床心理学研究の技法 福村出版

(例) Blechman, E.A.(1990). Emotions and family: For better or for worse. New York: Lawrence Erlbaum Associates.

(ブルックマー、E.A.松山義則・濱治世 (監訳) (1998). 家族の感情心理学 北王路書房)

・ 単行本の一部の場合 (引用したい部分のページ数を末尾に記載する)

著者名（発行年）：論文題名. 編者名, 書名, 頁 - 頁, 発行所.

(例) 飯田順子・石隈利紀 (2009). 学校生活スキル尺度 堀洋道 (監修) / 櫻井茂男・松井豊 (編) 心理測定尺度集IV サイエンス社 Pp.232-239.

・ 新聞記事

(例) 毎朝新聞 (2010). 学生の飲酒問題にいかに関わり向かうか 11月25日朝刊.

・ インターネット上の資料

(例) 日本心理学会 (2005) 執筆・投稿の手引き (2005年改訂版)

<<http://www.psych.or.jp/publication/inst.html>>